

第3回中京独立戦略本部会議 議事概要 その1

本部長	主な意見
河村 たかし	○前回から今回の開催まで随分と時間がかかって申し訳ない。中京都と尾張名古屋共和国との関係で意思疎通が十分でなかったことなどが影響した。 ○「都」という名称は使えなくなったが、旧尾張藩くらいのところで準独立国家というか、新しい愛知、新しい名古屋をつくっていきたい。 ○東京のように特別区を設置し、区ごとに選挙をして議員を選出するという選択肢は無いと思っており、担税力のある地域が準独立し、市町村から発展していく大名古屋というものを目指したい。 ○今回の私案で一つ方向性を出せたかと思うが、間仕切り論ばかりで市民の生活が苦しくなってはいけない。大都市としては、商売が盛んになることが大事だ。
大村 秀章	○暫く開催の間隔が空いたことを心からおわび申し上げたい。ただ、この間も、県と名古屋市とで、一緒に、観光プロモーションや企業誘致などをやってきた。 ○グローバル化の国際競争の中で、日本が発展していくためには、これまでのような中央集権体制、つまり、東京で、永田町・霞ヶ関で決めるからそこに右へならえ、ということでは立ち行かない。

	○私自身の中京都に関する考え方は、2年前の公約、それから、これまで第1回、第2回会議で申し上げたとおりであり、日本屈指の産業集積がある愛知と大都市機能が集中する名古屋が、合体して、ベクトルを一つにして、中央集権ではなく、国から自立・独立を果たして、成長のエンジンとなって日本を引っ張っていく、支えていくということが目指すところである。 ○この地域からあがる国税収入がどういったことに使われるのかを、実際に払う地域の側でしっかり見ていかなければならない。どこかから取ってきて、それをどこかに使うということがずっと繰り返されてきたことが、国家財政の破綻に結びついている。 ○世界で発展しているのは、中国の上海のような直轄市、シンガポールのような都市国家であり、要は、自分でグランドデザインを描いて、全世界からヒトも企業も呼び集めることができるところである。 ○世界的な、特にアジアにおける大都市の競争が非常に激しくなっている。ヒトは資源なので、人材をどう集めるかが非常に大きなポイントになってくる。
--	---

本部員	主な意見
浅井 慎平	○3回目で初めて市長が何をやりたいのか入口は理解出来た。 ○個々にはそれぞれ議論が必要かと思うが、これからは議論がしやすくなったのでは。 ○このテーマの強さ、弱さをどう認識するのか、議論しなければ先に進めない。
井沢 元彦	○メンバーに女性や10年、20年先に現役であるような若い人をもっと加えたほうがいいのではないかな。 ○市長の考えは十分理解したが、地方で深刻な問題は少子化と人口減少。今後、寒冷地の人が暖かいほうへ集まってくる中で受け皿になれるよう、少子化対策をしっかりやるべきだと思う。 ○例えば名古屋市、愛知県の職員などにシングルマザーを積極的に受け入れ、働くために保育園などを充実することは、今の権限ですぐにできると思う。 ○人口が減ると税収も減るので、名古屋あるいは中京都に住めば子どもが育てやすい、何人産んでも平気だという環境を一刻も早くつくるべきだ。 ○ネーミングは大切で、東京都のレプリカをつくるわけではないので何か新しいことを考えなければ、東京都の2番煎じ、大阪都の3番煎じになってしまう。

奥野 信宏	○日本の新たな発展の起爆剤は大都市であり、私は特に名古屋が大事だと思っている。 ○名古屋の中核都市圏としては、名古屋市の周辺50～100km圏ぐらいが考えられる。安城、刈谷、岡崎、豊田、岐阜、四日市を含むイメージである。この地域では、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブという、日本でも傑出した広域連携の取組がなされている。 ○リニア中央新幹線については、東京－名古屋間が40分につながっても、名古屋から豊田まで1時間もかかるようでは、リニア開業の強みは活かせない。 ○中部広域圏については昇龍道に注目している。鳥羽から能登半島まで、一つの広域圏があるというイメージが、少しずつ出来ていくような気がする。これをきっかけに、いろんな取組が始まればよいと思っている。 ○行政区域を越えて色々な話をするためには、多様な主体との連携が大切ではないか。
木村 操	○第1回、2回の会議の意見を踏まえて、産業活力、都市基盤・防災、魅力創造・発信、若者・女性支援の4つの方向性が示され、タスクフォースを設けて具体的に検討し、進捗を本部会議に報告するという事だったので、今後、検討状況を聞ければと思う。 ○行政のあるべき体制では、中京都が目指す大都市圏、行政の効率化、ムダの排除といったことを県市が協議し合意されたものをお示しいただければと思う。 ○中京都実現に向けた方向性を知事、市長がベクトルをあわせ大きな方向を示していただくことが重要なのではないかとと思う。

鶴田 欣也	○強い中京都を目指す上での成長戦略はこれまでも議論されてきたが、これからも内容を詰めていく必要がある。 ○イメージはある程度理解したが、行政体制については愛知県と名古屋市の棲み分けや権限移譲についてまだ不明確な部分がある。 ○県下の他の市町村がどう考え、一員として理解していただけるかが今後の大きな課題で、県民の理解が得られるほど具体的な方向性が見えていないと感じる。 ○昨年末の政権交代以降、株高による企業業績改善が報道されているが、当地域を支える中小企業への影響はほとんど感じられない。 ○大学新卒者の就職内定率の低さが話題となっているが、中小企業は新卒者がなかなか来てくれないという課題を抱えている。 ○名古屋市と近郊都市が連携して都市機能を分担し、都市圏を拡大しながら、若者にとって住みやすい地域にしていくことが活力ある中京都構想の実現への一歩であると考えている。
中村 捷二	○目的や目指す方向がはっきりしてきたので、議論がしやすくなってきたと思う。 ○教育・人材育成というのが、非常に重要な問題だと感じている。若者・女性支援というものがあるが、教育・人材育成的な事柄をもう一項目付け加えていただけると大変ありがたい。 ○多様な連携という中では、個人的にはやはり最終的にはE（新たな広域連携の形態）までいかなければと思う。あるいは、連携の範囲ということについては、④型（道州）までいかなければと考えている。 ○これからも議論が続くと思うが、その議論がこの地域のみならず、他の地域での議論を牽引するものになればいいと思っている。

永谷 亜矢子	○仕事で中国、アジアに行く機会が多いが、東京、大阪を知っている人は多いが、名古屋を知っている人は本当に少ない。 ○中京都のエリアに住むこと、観光やインバウンドを中京都のエリアでやることに関して、名古屋は住みやすく、有望な色濃い物産やコンテンツがありながらも外に打ち出せていないと思う。 ○今後、中京都を強くするためには、若者や女性にもっとアイデアを求めたり、メディアの方々にも入っていただき、伝え方やマーケティングしてきた部分をつなげてアウトプットしていくことも良いのではないかな。 ○この地域を訪れたり住んだりする理由をもっと強く打ち出していけば、強い都市になるのではないかな。 ○積み上げ型だけでなく、何をアウトプットしていくかを決めて、そこから逆算して中京都がターゲットにする人を考えていく方法もあるかなと思う。 ○この地域ではものづくり大会というものが開催されると聞いたが、表彰で終わるのではなく、地域の産業にどう貢献できるようにするか、人材育成も含めたアウトプットは多く作れると思う。 ○まずはこの地域のブランディングをやるのが良いと思う。
---------------	--

第3回中京独立戦略本部会議 議事概要 その2

本部長	強い大都市圏域をめざして（私案）の説明
河村 たかし	○成長戦略とどういう自治体を作っていくかという点については、東京都や大阪府など、様々な仕組みがある中で、名古屋ではどういう新しい自治体を目指していくのか、議論しなくてはいけないと考え、今回、私案として整理をした。 ○強い大都市を目指していくという事については、今のままでは「東京・大阪で日本を牽引すれば十分で、名古屋は三男坊として後から付いて来ればいい」と言われてしまうので、よほどの気持ちを持ってかからないといけない。 ○目指す姿は「道州制を見据えた」と書いてあるが、上から押し付けるだけの道州制では行政機関ができるだけで終わってしまう。下から盛り上がっていくことが必要ではないかと思っている。 ○圏域全体を活性化させる成長戦略と行政体制は、今のままではなく、新たな仕組みを作ることが必要なのか、或いは、そうでないのかから議論しなくてはいけない。 ○制度として、日本国、愛知県、名古屋市のそれぞれがあるという事は決まっているが、新しい準独立地域を作っていくには、新たな自治体が一個必要になる。 ○その際、現実論として、準独立するには愛知県と相談していかないことには実現できない。 ○尾張地域ぐらいの規模の方が新しい愛知、新しい名古屋を考える上において割合と理解されやすい。

	○圏域全体を牽引する名古屋市の実現の基本的な考え方は、地方が行うべき事務を一元的に担う地域の特性を踏まえた名古屋版特別自治市への移行することと、国・広域自治体から大幅な権限・税財源の移譲を受けて行財政面で準独立するということである。 ○指定都市市長会が言う特別自治市は政令指定都市だけの範囲を言っているが、私はそれより尾張藩くらいのところで、全体が特別自治市のようになるというか、独立していく、いわば「名古屋版特別自治市」のような体制が必要だと思う。 ○大都市としての担税力を背景とする、強い権限・税財源により、市域内だけでなく、圏域全体の活性化を牽引するためには財政的な自立が大事で、それにより住民の利便性向上、行政全体のコスト削減などを実現することができる。 ○財源の移譲という事は指定都市市長会でも言っているが、財源を含んだ独立採算制とまでは言っておらず、そうしたものを目指していく。 ○市町村が自主・自立しながら、名古屋市を核とした強固な水平連携により、圏域全体の発展をめざす市町村連合を新設し、名古屋市はその連携の核として、リーダーシップを発揮するということである。そのねらいとしては、圏域全体の魅力向上と活性化、行政区域を越える広域課題・共通課題の解決、スケールメリットを生かした事業効率化、サービス水準の確保、権限移譲の広域的な受け皿をつくるということである。 ○要するに、色んな仕事を実際に今の市町村をまたいでやっていくことになるので、尾張名古屋共和国という準国家でやっていってはどうか、ということである。
--	---

	○尾張藩ぐらいで新しい準国家をつくる場合、どんな事が重要になるのかを、ぜひここで議論していきたい。 ○連携度合いで5つの分類を考えてきた。Aはゆるやかなフレンドシップ、Bはごみの受入などもう少し付帯的にいろんな行政的機能も連携しながらやっていくということ。Cは今地方自治法で想定されている広域連合、一部事務組合。Dは全部合体して一つの尾張名古屋市というのできるもの。それともう一つ新たな連携形態ということで、財政の自立、独立採算制を中核とした一種の準国家というものをつくっていくものである。 ○基本的な考え方として、尾張・三河地域の市町村連合をつなぎ、圏域全体の発展をめざす新たな連合組織を新設し、構成は、連合組織の長、尾張・三河の市町村連合の長などとする。方向性としては、道州制を見据えて、尾張・三河地域以外の市町村連合も順次加え、連合組織の輪を他県へ拡大していくという方向にあると考えている。 ○新たな都市の姿の範囲としては、①型は名古屋市だけ。②型は尾張地域くらいの範囲で一個の国家といえるようなもの。③型は愛知県全体として、三河も含む格好で、何か新しい準国家ができないかというもの。④型は道州制が新しい準国家のあり方というもの。⑤型はわかりやすく言うと東京のような制度を目指し、名古屋市を複数の特別区で分割するもので、だいたい5つくらいの新しい特別区ができる分割型。 ○私としては、歴史的地盤が共通ということもあり、②型をまずやりたい。 ○名古屋市はあたかも国の扶養家族のように言われているが、交付税を若干もらっているだけで、税収の何百分の一である。このままでは、東京一極集中になってしまうので、ひとつの考え方として、精神的にも独立する気概を持つ必要がある。
--	---